

令和6年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立遠山小学校

1 学校教育目標

育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに ～ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く～

2 本年度の重点化された具体的な目標

・確かな学力の育成	・基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、基礎学力の向上を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付けさせ、タブレット端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの視点にたった授業を実践する。
・豊かな心の育成	・遠山地区ブロック研修、校内研修、相互授業参観による研修の充実を図る。 ・物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める「特別の教科 道徳」の学習を展開する。 ・いじめをはじめ、多様な課題に対応する相談支援機能の充実を図る。
・健やかな体の育成	・集団活動を通して、「ありがとう」と言える子「ありがとう」と言われる態度を育成する。
・キャリア教育の推進	・児童の実態を把握し、体育の授業及び日常生活における運動実践の充実に努める。
・グローバル化に対応した教育の推進	・全ての教育活動をキャリア発達の視点で関連付け、キャリア発達を支援する。
・地域と共に歩む学校づくりの推進	・成田市小中学校英語科指導基準に基づいた英語教育を充実する。 ・学校だより・学年だよりの発行や学校ホームページの随時更新により、情報発信に努める。 ・地域人材の活用や校外学習の協力要請等、地域の教育力を生かした特色ある学校づくりに努める。 ・学校林「駒の森」を活用した環境教育を充実する。
・安全安心な学校づくりの推進	・防災教育を充実し、「自分の身は自分で守る」という防災意識の定着を図る。
・特別支援教育の推進	・本人・保護者の立場に寄り添いながら、合理的配慮に関する共通理解を構築していく。
・教職員の働き方改革	・校内行事等のスリム化を図り、業務の総量を減らすことで児童に向き合える時間を創出していく。

3 自己評価結果 ※A(適切) B(ほぼ適切) C(やや不適切) D(不適切)

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
学校運営 教育課程	保：児童は学校が楽しいと感じているか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	A	児童や保護者のアンケートからは、児童にとって楽しい学校であるという回答を得た。これは、小規模校ならではの異学年交流の充実や、保護者を含めた子どもたちが楽しみにしている様々な活動の充実、今年度より始めた近隣校との交流学习が大きな要因であると考え。次年度は、これまでに以上に児童が主役となって、学校行事等に参画していける体制を、教育活動全般にわたって計画していく。また、地域人材の積極的な活用や保護者と連携し、児童にとってより充実した教育課程となるようにしたい。
	保：児童の個性に応じた配慮や支援を行っているか。	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A	
	児：遠山小は、明るく楽しい学校だと思うか。	児童の97%から肯定的な回答を得た。	A	
	職：各教科の年間指導計画・週案などが適切に作成されているか。	「概ね十分」は86%、「不十分」が14%であった。	B	
学習指導	保：教員はきめ細かい学習指導に努めているか。	保護者の83%から「適切である」との支持を得た。	B	学習指導については、概ね良好な回答を得ているが、「きめ細かい学習指導」では、昨年度より1割以上評価を下げた。また、「学習に進んで取り組む子の育成」についても2割以上評価を下けている。例年評価の低い「進んでの発表」の改善と共に、学習全般において、タブレットを活用したきめ細やかな学習支援、興味関心の向上に取り組んできたが、授業における発話による意見交換など、「楽しく活気ある授業」を目指し、今後も改善を進めていく。
	保：学習に進んで取り組む子に育っているか。	保護者の66%から「適切である」との支持を得た。	C	
	児：授業中、進んで発表しているか。	児童の65%から肯定的な回答を得た。	C	
	児：担任の先生は、間違えたり分からなかったりした時に、分かるようになるまで教えてくれるか。	児童の97%から肯定的な回答を得た。	A	
	職：一人一人の状況を把握し、個に応じた指導を行っている。	教職員の71%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B	
	職：児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を行っているか。	「十分」「概ね十分」と答えた教員が86%。	B	
生徒指導	保：児童が困っていたり、悩んでいたるときは、先生方が親身になって対応してくれるか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	A	保護者、児童からは概ね良好な回答を得ているが、児童への丁寧な教育相談については、保護者の肯定的回答が1割程度下がっている。学校では、アンケートや教育相談等の充実、スクールカウンセラーの個人面談を実施するなど、問題の未然防止、早期解決に努めている。しかし、中には、悩みを抱えていてもアウトプットできないことも考えられるため、相談ポストの周知など、悩んでいることを気軽に相談できる場を増やしていきたい。基本的な生活習慣については、あいさつや言葉づかい、時間のけじめ等、学級担任の指導が浸透しつつある。
	児：先生は、休み時間に一緒に遊んだり、おしゃべりをしてくれたりするか。	児童の87%から肯定的な回答を得た。	A	
	児：先生は、困った時にいっしょけんめい相談にのってくれるか。	児童の97%から肯定的な回答を得た。	A	
	職：基本的な生活習慣を身に付けさせるための工夫がなされているか。	教職員の86%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B	
	職：児童のこのことについて職員が共通理解し、全体で取り組む体制が整備されている	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
道徳 人権教育	保：相手の立場を考え、協力する子に育っているか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	A	いじめ・不登校支援については、週1回開催している生徒指導委員会で組織的に迅速に対応している。また、特別支援委員会を設け、各学年で個別の支援が必要とする児童について、全体で共通理解を図っていった。 異学年交流(たてわり清掃、たてわり遊び、委員会・クラブ活動など)を通じて、温かい人間関係づくりを継続して
	児：困っている友達がいたら、声をかけたり手助けをしたりできるか。	児童の91%から肯定的な回答を得た。	A	
	職：児童一人一人のよさを認める指導がなされているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
保健 安全管理	保：運動に親しみ、進んで体を鍛える子に育っているか。	保護者の72%から「適切である」との支持で、昨年度より1割程度下がった。	B	保護者からは昨年度より評価が1割程度下降したが、児童は1割程度肯定的評価が向上した。運動会やマラソン記録会、なわとび集会などの行事に加え、校長が休み時間に新しい遊びを子どもたちに教えたり、担任と一緒に汗を流しながら遊んだりする日常的な活動が増えたことにより、児童が自発的に運動するようになってきたことが大きな要因であると考え。
	児：進んで体力づくりに取り組んでいるか。	児童の85%から肯定的な回答を得た。	B	
	職：体育指導、健康教育の充実に努めているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
保護者・地域 との関わり	保：学校便りや学校公開、行事への参加等で学校の様子を知ることができるか。	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A	今年度も、PTAによる遠山まつりやもちつき大会を盛大に行い、多くの保護者の協力を得ることができた。また、学校林「駒の森」を教材とした環境学習、保護者参観を兼ねた駒の森音楽集会を実施する等、充実した活動ができた。次年度も地域や家庭との連携を密にとり、児童の地域愛をさらに深めていく活動を行っていききたい。
	保：PTAの行事や活動などにより、保護者と学校が連携した取り組みがみられる。	100%「適切である」との支持を得た。	A	
	職：地域の教育力、外部人材を活用した授業や行事が充実したか。(各教科・素敵な先輩シリーズ)	教職員の100%が「概ね十分」と考えている。	A	

4 自己評価の結果の分析

・「確かな学力の育成」では、授業中の発表に課題を残す結果となっている。タブレットの効果的な活用とともに、友だちどうしの対話的な学習を推進していくことが必要であると感じている。

・「豊かな心の育成」では、学校林「駒の森」を活用した全校駒の森整備作業や5年生の駒の森学習会等、教育活動への効果があったと考える。今後も、遠山小ならではの取り組みをさらに充実させていきたい。

・「健やかな体の育成」では、体力の向上を目指して取り組んできていて、保護者や児童の意識も少しずつ向上してきている。体育科学習の充実とともに、児童が進んで体を動かしていける環境作りを図っていききたい。

・保護者や地域とのつながりでは、駒の森整備作業やリサイクル活動、遠山まつりなどのPTA行事などを通して、連携が深まったと考える。今後も、連絡等を密にとりながら、信頼関係を築いていきたい。